

★漢方談義★



「肺」と「大腸」

太田順康

すこやか教室 山歩き

曜日と時間： 毎週金曜日 10:30～

☆雨のときは、中止します。

☆お茶など飲み物を持参

<12月の予定>

8日(金) 15日(金) 22日(金)

今年も残り少なくなりました。

例年より早かった紅葉もそろそろ終わりに近づき、松尾池には、オシドリ到来を待ちわびる写真家たちが多く訪れています。冷たい風の木枯らしがやって来そうですが、賑やかにさえずる小鳥たちに負けず、元気に歩きましょう。

§ 漢方相談日

(担当 太田順康：日本漢方交流会認定漢方終身師範。岐阜県漢方研究会会長。岐阜薬科大学「漢方学」講師)

今月の漢方相談日は、下記のように。

7日(木) 18日(月) 25日(月)

§ 年末年始の休診日

12月28日(木)から1月4日(木)まで休診

§ 甲状腺エコー検査を始めました。

ご希望の方は、受付までお申し出ください。



スモーカーライザーで肺の空気を検査



喜楽が激しいと肺が弱り、魄(陽の働きを持ったましい)を傷つけ狂になると言われています。恐れや驚きが激しいと呼吸器の病になるそうです。

「大腸」は廻腸と広腸(直腸)からなり、伝導の官で小腸から受け取った糟粕を肺の指令を受けて大便として排出します。大腸の水分を吸収する働きは前に述べたように胃の働きに入っています。

(つづく)

「肺」と「大腸」が臓腑、陰陽の関係があると言うのは「心」と「小腸」の関係と同じでどうも理解できないようですが、咳の薬の「麻杏甘石湯」が大腸の出口に出来る痔の腫れたのに効果があるので満更嘘ではないようです。

「肺」は六葉両耳合わせて八葉、四方に垂れて五臓の華蓋(天子車につけた花笠、蓮華の花の形)と成ると言っています。実際は右三葉、左二葉ですが。ちなみに私は左一葉ですけども。

「大腸」は臍に当たりて、十六曲、上口は小腸の下口、下口は直腸だそうです。

「肺」の働きは相傳(君主に付き添う高官)の官で「心」に代わって調節を行い、血流を調節し気血をめぐらし。

「胃」が水穀から得た五味を「脾」から受け取り経絡を通して五臓に送り栄養するとともに五臓を協調させます。

氣を司り、呼吸作用で得た氣を全身に送ります。また皮毛や鼻、咽喉に関係して寒邪・風邪の侵入を防ぎます。辛いものは肺の働きを強めますが、取りすぎは肺を弱らせます、また苦味の取りすぎも肺を弱らせます。適度な酸味は肺を強めます、肺が弱ると、咳、呼吸困難、喘息、くしゃみなどの呼吸器の病気の他皮膚病になり易くなります。

「肺」は鼻を通して外と交通しています。肺が弱ると鼻が白くなります。「鼻白む」とは恐れおののく様子を言うそうですが、肺が弱ると起こる精神状態のようです。ハクビシンは肺が弱いのでビクビクしてるのでしょうか？

